



# IBM DB2のリストア

## SnapCenter software

NetApp  
January 09, 2026

# 目次

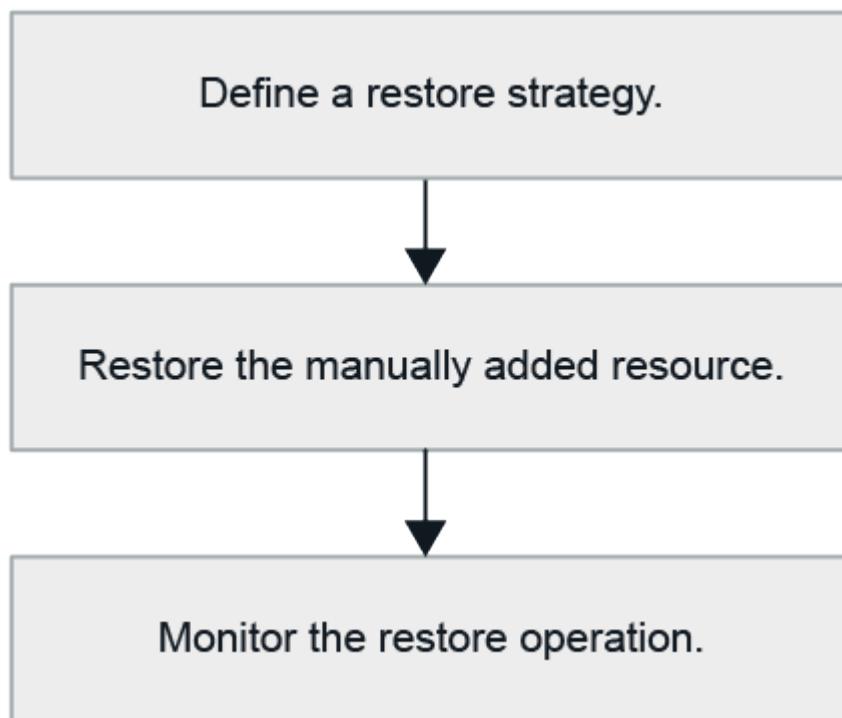
IBM DB2のリストア	1
リストアのワークフロー	1
手動で追加したリソースバックアップのリストア	1
自動検出されたデータベースバックアップのリストアとリカバリ	6
IBM DB2リストア処理の監視	8

# IBM DB2のリストア

## リストアのワークフロー

リストアとリカバリのワークフローには、計画、リストア処理の実行、および処理の監視が含まれます。

次のワークフローは、リストア処理の実行順序を示しています。



PowerShellコマンドレットを手動またはスクリプトで使用して、バックアップ、リストア、クローニングの処理を実行することもできます。PowerShellコマンドレットの詳細については、SnapCenterのコマンドレットのヘルプを使用するか、コマンドレットのリファレンス情報を参照してください。

"[SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド](#)"です。

## 手動で追加したリソースバックアップのリストア

SnapCenterを使用すると、1つ以上のバックアップからデータをリストアおよびリカバリできます。

開始する前に

- リソースまたはリソースグループをバックアップしておく必要があります。
- リストアするリソースまたはリソースグループに対して実行中のバックアップ処理がある場合は、キャンセルしておく必要があります。
- リストア前、リストア後、マウント、およびアンマウントの各コマンドを実行する場合は、プラグインホストで使用可能なコマンドリストにコマンドが存在するかどうかを次のパスから確認する必要があります

す。

- Windowsホストのデフォルトの場所：C:\Program NetApp SnapCenter SnapCenter Plug-in Creator\etc\allowed\_commands.config
- Linuxホストのデフォルトの場所：/opt/linux/scc/etc/allowed\_commands.config NetApp SnapCenter



コマンドがコマンドリストに存在しない場合、処理は失敗します。

## タスクの内容

- ONTAP 9.12.1以前のバージョンでは、リストアの一環としてSnapLockウォールトSnapshotから作成されたクローンにSnapLockウォールトの有効期限が継承されます。SnapLockの有効期限が過ぎた時点で、ストレージ管理者がクローンを手動でクリーンアップする必要があります。

## SnapCenter UI

### 手順

1. 左側のナビゲーションペインで、\*リソース\*をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース]ページで、リソースタイプに基づいて、View]ドロップダウンリストからリソースをフィルタリングします。

リソースがタイプ、ホスト、関連するリソースグループとポリシー、およびステータスとともに表示されます。



バックアップはリソースグループのものである場合もありますが、リストアするリソースを個別に選択する必要があります。

リソースが保護されていない場合は'保護されていない'というメッセージが[全体のステータス]列に表示されますリソースが保護されていないか、別のユーザによってバックアップされている可能性があります。

3. リソースを選択するか、リソースグループを選択してそのグループ内のリソースを選択します。

リソーストポジページが表示されます。

4. Manage Copies (コピーの管理) ビューから、プライマリまたはセカンダリ (ミラーまたはバックアップ) ストレージシステムから\*Backups (バックアップ) を選択します。
5. [Primary backup (s)]テーブルで、リストア元のバックアップを選択し、\*\*\*をクリックします



6. [Restore Scope]ページで、\*[Complete Resource]\*を選択します。

- a. [Complete Resource]\*を選択すると、IBM DB2データベースの設定済みデータボリュームがすべてリストアされます。

リソースにボリュームまたはqtreeが含まれている場合、そのボリュームまたはqtreeでリストア対象として選択されたSnapshotのあとに作成されたSnapshotは削除され、リカバリすることはできません。また、同じボリュームまたはqtreeで他のリソースがホストされている場合、そのリソースも削除されます。

LUNは複数選択できます。



「\* all \*」を選択すると、ボリューム、qtree、またはLUN上のすべてのファイルがリストアされます。

- [リストア前] ページで、リストア・ジョブを実行する前に実行するプリ・リストアおよびアンマウント・コマンドを入力します。
- [ポスト・オペレーション] ページで、マウントおよびリストア後のコマンドを入力して、リストア・ジョブの実行後に実行します。
- [通知] ページの [電子メールの設定 \*] ドロップダウンリストから、電子メールを送信するシナリオを選択します。

また、送信者と受信者のEメールアドレスとEメールの件名を指定する必要があります。また、[\* 設定 \* (Settings \*)] > [\* グローバル設定 \* (\* Global Settings \*)] ページでも SMTP を設定する必要があります。

- 概要を確認し、[完了] をクリックします。
- 操作の進行状況を監視するには、\* Monitor \* > \* Jobs \* をクリックします。

#### 終了後

ロールフォワードステータスが「DB PENDING」の場合にのみリカバリが可能です。このステータスは、アーカイブログが有効なDB2データベースに適用されます。

#### PowerShellコマンドレット

##### 手順

- Open-SmConnectionコマンドレットを使用して、指定したユーザのSnapCenterサーバとの接続セッションを開始します。

```
PS C:\> Open-SmConnection
```

- Get-SmBackupコマンドレットおよびGet-SmBackupReportコマンドレットを使用して、リストアするバックアップを特定します。

この例では、リストアに使用できるバックアップが2つあります。

```
PS C:\> Get-SmBackup -AppObjectId
cn24.sccore.test.com\DB2\db2inst1\Library

  BackupId      BackupName          BackupTime
BackupType
  -----  -----
  -----
  1      Payroll Dataset_vise-f6_08... 8/4/2015 11:02:32
AM  Full Backup
  2      Payroll Dataset_vise-f6_08... 8/4/2015 11:23:17
AM
```

この例では、2015年1月29日から2015年2月3日までのバックアップに関する詳細情報を表示しています。

```
PS C:\> Get-SmBackupReport -FromDateTime "1/29/2015" -ToDateTime "2/3/2015"

SmBackupId      : 113
SmJobId        : 2032
StartTime       : 2/2/2015 6:57:03 AM
EndTime         : 2/2/2015 6:57:11 AM
Duration        : 00:00:07.3060000
CreatedDateTime : 2/2/2015 6:57:23 AM
Status          : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName      : Vault
SmPolicyId      : 18
BackupName       : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_06.57.08
VerificationStatus : NotVerified

SmBackupId      : 114
SmJobId        : 2183
StartTime       : 2/2/2015 1:02:41 PM
EndTime         : 2/2/2015 1:02:38 PM
Duration        : -00:00:03.2300000
CreatedDateTime : 2/2/2015 1:02:53 PM
Status          : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName      : Vault
SmPolicyId      : 18
BackupName       : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_13.02.45
VerificationStatus : NotVerified
```

3. Restore-SmBackupコマンドレットを使用して、バックアップからデータをリストアします。



AppObjectIdは「Host\Plugin\UID」です。UID=<instance\_name>は手動で検出されたインスタンスリソースの場合、UID=<instance\_name>\<database\_name>はIBM DB2データベースリソースの場合です。ResourceIdは、Get-smResourcesコマンドレットで取得できます。

```
Get-smResources -HostName cn24.sccore.test.com -PluginCode DB2
```

この例は、プライマリストレージからデータベースをリストアする方法を示しています。

```
Restore-SmBackup -PluginCode DB2 -AppObjectId
cn24.sccore.test.com\DB2\db2inst1\DB01 -BackupId 3
```

この例は、セカンダリストレージからデータベースをリストアする方法を示しています。

```
Restore-SmBackup -PluginCode 'DB2' -AppObjectId
cn24.sccore.test.com\DB2\db2inst1\DB01 -BackupId 399 -Confirm:$false
-Archive @(
    @{"Primary"="
```

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、RUN\_Get-Help コマンド *NAME* を実行して参照できます。または、を参照することもできます "SnapCenter ソフトウェアコマンド リットリファレンスガイド"。

## 自動検出されたデータベースバックアップのリストアとリカバリ

SnapCenterを使用すると、1つ以上のバックアップからデータをリストアおよびリカバリできます。

開始する前に

- リソースまたはリソースグループをバックアップしておく必要があります。
- リストアするリソースまたはリソースグループに対して実行中のバックアップ処理がある場合は、キャンセルしておく必要があります。
- リストア前、リストア後、マウント、およびアンマウントの各コマンドを実行する場合は、プラグインホストで使用可能なコマンドリストにコマンドが存在するかどうかを次のパスから確認する必要があります。
  - Windowsホストのデフォルトの場所 : C:\Program NetApp SnapCenter SnapCenter Plug-in Creator\etc\allowed\_commands.config
  - Linuxホストのデフォルトの場所 : /opt/linux/scc/etc/allowed\_commands.config NetApp SnapCenter



コマンドがコマンドリストに存在しない場合、処理は失敗します。

タスクの内容

- 自動検出されたリソースについては、SFSRでリストアがサポートされます。
- 自動リカバリはサポートされていません。
- ONTAP 9.12.1以前のバージョンでは、リストアの一環としてSnapLock Vault Snapshotから作成されたクローンにSnapLock Vaultの有効期限が継承されます。SnapLockの有効期限が過ぎた時点で、ストレージ管理者がクローンを手動でクリーンアップする必要があります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、\*リソース\*をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース]ページで、リソースタイプに基づいて、View]ドロップダウンリストからリソースをフィルタリングします。

リソースがタイプ、ホスト、関連するリソースグループとポリシー、およびステータスとともに表示されます。



バックアップはリソースグループのものである場合もありますが、リストアするリソースを個別に選択する必要があります。

リソースが保護されていない場合は'保護されていない'というメッセージが[全体のステータス]列に表示されますリソースが保護されていないか、別のユーザによってバックアップされている可能性があります。

3. リソースを選択するか、リソースグループを選択してそのグループ内のリソースを選択します。

リソーストポロジページが表示されます。

4. Manage Copies (コピーの管理) ビューから、プライマリまたはセカンダリ (ミラーまたはバックアップ) ストレージシステムから\*Backups (バックアップ) を選択します。
5. [Primary backup (s)]テーブルで、リストア元のバックアップを選択し、\*\*\*をクリックします

Primary Backup(s)	
Backup Name	End Date
rg1_scapr0191683001_01-05-2017_01.35.06.6463	1/5/2017 1:35:27 AM

6. [Restore Scope]ページで\*[Complete Resource]\*を選択し、IBM DB2データベースの設定済みデータボリュームをリストアします。
7. [リストア前]ページで、リストア・ジョブを実行する前に実行するプリ・リストアおよびアンマウント・コマンドを入力します。

自動検出されたリソースにはアンマウントコマンドは必要ありません。

8. [ポスト・オペレーション]ページで、マウントおよびリストア後のコマンドを入力して、リストア・ジョブの実行後に実行します。

自動検出されたリソースにはマウントコマンドは必要ありません。

9. [通知]ページの[電子メールの設定\*]ドロップダウンリストから、電子メールを送信するシナリオを選択します。

また、送信者と受信者のEメールアドレスとEメールの件名を指定する必要があります。また、[\* 設定\* (Settings\*)] > [\* グローバル設定\* (\* Global Settings\*)] ページでも SMTP を設定する必要があります。

10. 概要を確認し、[完了]をクリックします。

11. 操作の進行状況を監視するには、 \* Monitor \* > \* Jobs \* をクリックします。

終了後

ロールフォワードステータスが「DB PENDING」の場合にのみリカバリが可能です。このステータスは、アーカイブログが有効なDB2データベースに適用されます。

## IBM DB2リストア処理の監視

[Jobs]ページを使用して、さまざまなSnapCenterリストア処理の進捗状況を監視できます。処理の進捗状況を確認して、処理が完了するタイミングや問題が発生していないかを確認できます。

タスクの内容

リストア後の状態によって、リストア処理後のリソースの状況と、追加で実行できるリストア操作がわかります。

[Jobs]ページには、処理の状態を示す次のアイコンが表示されます。

- 実行中
- 完了しました
- 失敗
- 完了（警告あり）または警告のため開始できませんでした
- キューに登録済み
- キャンセル済み

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [\* Monitor\*] ページで、 [\* Jobs] をクリックします。
3. [\* ジョブ \*] ページで、次の手順を実行します。
  - a. をクリックしてリストをフィルタリングし、リストア処理のみを表示します。
  - b. 開始日と終了日を指定します。
  - c. [\* タイプ \*] ドロップダウン・リストから、 [リストア \*] を選択します。
  - d. [\* Status \*] ドロップダウン・リストから、リストア・ステータスを選択します。
  - e. [適用 (Apply) ] をクリックして、正常に完了した操作を表示する。
4. リストアジョブを選択し、 \* Details \* をクリックして、ジョブの詳細を表示します。
5. [\* ジョブの詳細 \*] ページで、 [\* ログの表示 \*] をクリックします。

**View logs** ボタンをクリックすると、選択した操作の詳細なログが表示されます。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。